

「違うんだよ、健司」

7月1日

～本当の友情について考えてみよう～



【教材あらすじ】

友達に対して注意も深入りもせず適当に合わせていた「僕」が、転校生の健司の言葉により「本当の友達」について考える。

僕と幼馴染の耕平、そして転校生で同じ野球部の健司。健司は何事も積極的で、はっきりとものを言う。「お前いつも耕平に合わせているけど、それでいいのか。」そう健司に言われた「僕」は「お前、堅いんだよ。お互いに適当に合わせた付き合いが最高なんだよ。」と返した。1年後の夏、耕平の様子がおかしいことを心配した健司は何度か尋ねるが、「いや、ちょっとな」と答えるだけの耕平。あるとき、2人に辛い気持ちを打ち明けた耕平。お節介とも思えた健司の言葉は、家族の問題でだれにも言えず悩み続けていた耕平にとって、うれしい友の言葉だった。

○自分を振り返って。

- ①友達に思っていることが言えますか？
- ②友達の意見に流されたことがありますか？
- ③クラスの友情を育むためにどのようなことが大切だと思いますか？

①仲の良い友達には思ったことはけっこう言えるけど、傷ついていないか心配なことがあった。

②クラスでは流されやすいことは多いかもしれないけど、仲の良い友達には流されないと思う。

③少しでもしゃべる。クラスの雰囲気を和やかにする。

①友達のためになることは言う。

②小学生の時は何度か流されたことはあるけど、中学生になってからは、自分の考えをきちんと持って、流されないように努力しています。

③クラスの友情をはぐくむために必要なことは、なるべく男女関係なく話をする事だと思います。男女が話す機会を設けたことで、今までほとんど話をしたことがなかった人とも話すことができました。

①いいえ。ストレートに伝えたら、傷つくかもしれないので丸くしている。

②はい。友達に流されて、自分のやりたいことをできなかったことがある。

③まずは、話をして、お互いにどんな人なのかをわかってから友情をつくったらいいと思う。

①思ったことを伝えられる。

②友達に流されない。

③クラスの友情を育むために、自分に合った思いの伝え方で伝えることが必要。伝え方は相手にもわかるようにしなければならない。

①本当のことを伝えられる友達がいる。でも、多少行き止まって言えないこともある。

②嫌われないようにするため、同意している。

③笑い合って、話すとき「嫌われるかな」などを深く考えなくてもよいクラス。

①伝えられる。自分の思ったことは、すぐ言えるけど、言う前に考えて発言したいと思った。

②ある。多数の友達の意見に合わせてしまう時があった。一人になっても自分の思いを伝えられるようにしたいと思った。

③クラスの中で、男女関係なく思いを伝えあったり、どうしてもいい話をしても笑い合えること。

①伝えられる人もいれば、伝えられない人もいる。思ったことを伝えられないと本当の友情ではないと思うし、難しい・・・

②関係を崩したくなくて、相手の意見に流されたことはある。でも、自分の意志をもち堂々と言い合えないと、本当の友達ではないと思う。

③なんでも言い合える仲になること。本当のことを言えないまま過ごしていても面白くない。いけないことはいけない、よいことはよい、と言える仲になること。

①何でも言い合える友達がいることは大切なことだと思った。「ケンカするほど仲が良い」というのは本当だと思った。

③クラスに必要なのは、(自分が言えた口じゃないけど)心許せる友達だと思った。

①思ったことを伝えるのはとても大切だと思う。けれど、思ったことをそのまま伝えるのは、相手を傷つけてしまうと思う。時にはガマンも大切。

②流されるのもいいけど、たまには、陸に上がって自分の考えを言うのも大事だと思った。

③クラスはとくに仲悪いことないと思う思う。

①友達に伝えられる人と伝えられない人がいる。

②流されることが多い。

③クラスの友情を育むためには、話をしたり、会話を早く終わらせない、愛想をよくする。本音を言い合う。陰でコソコソ言わずに言いたいことがあるなら、直接言うことが大事だと思う。